ベーシック編

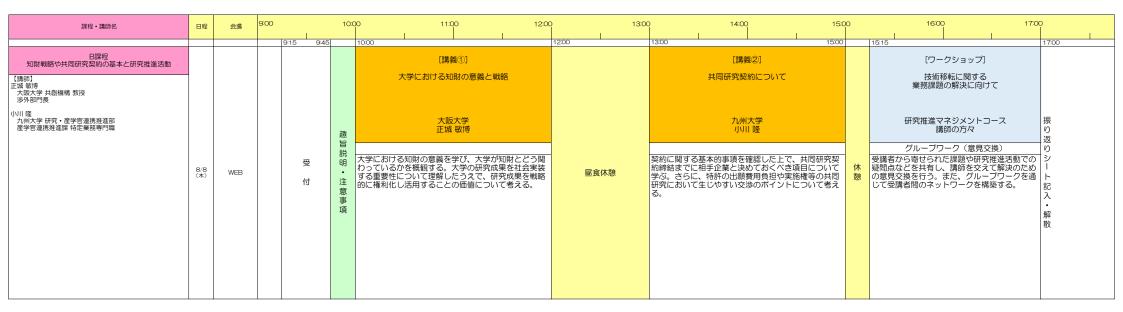
(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

開催形式 : オンライン開催 定員 : 80名

開催期間 : 令和6年8月7日(水)・8日(木)

(罐師名: 敬称略)

(講師名:敬称略)																		
課程・議師名	日程 会場		9:00		10	0:00		11:00 12:00	13:0		14:00		15:00		16:00		17:00	
													1					1
				9:15	9:40	10:00 10:4	10	10:45	12:00		13:00				15:15		17:	00
A課程 産学官連携の全体像と 研究開発マネジメント・リスクマネジメントの基礎 (開講挨拶) 小長谷 幸 科学技術振興機構 人財部 科学技術イノベーション人材育成拳 室長			WEB		主催趣旨語	[導入講義] 産学官連携の 全体像を掴む		[講義①] 産学官連携とのかかわり方と 基本姿勢				[講義②] 携コーディネート活 に開発マネジメント	動と			義③] 巻に関する メントの基礎		
(講師) 野口 義文 学校法人立命館 理事 立命館大学 副学長 東 ・ 産学官連携戦略本部 副本部長 兼)大学院キャリアバス推進室 窒長		WEB				立命館大学 野口 義文		立命館大学野口 義文			浜松医科大学			三重大学 狩野 幹人		振 り 返 り		
兼)研究部 事務部長 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 狩野 幹人 三重大学 学長補佐 (危機管理担当) 研究・社会連携統括本部 准教授 大学院地域イノベーション学研究科 准教授 知財ガバナンス部門 部門長 研究インテグリティ 相同 副協即長	8/7 (水)			受付	者 開講挨拶 記意事項	産学官連携の全体像や学ぶへき視に別している。 を関する。 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 をがいで、 をがいで	休 推進する業務の基 憩 な研究環境の変化 学官連携の形を踏	大学等における産学官連携活動を 推進する業務の基本を学ぶ。様々 な研究環境の変化や多様化する産 学官連携の形を踏まえ、協力支援 のあり方と心構えについて理解を 深める。	昼食休憩	昼食休憩		に期待される支援業 ネジメントするため 日常業務で抱えてい げ、その解決への糸	接業務等、研究開 ための基礎を学 ている課題や解決 の糸口をつかみ、	休憩	産学官連携リスクマネシ する。基本的なリスクの 集などを行い、産学官選 マネジメントの基礎知識)把握から分析、情報 選携活動に必要なリス	限収 1 スク ト	
WTパープノン・ソノ 1 Obj J 最近がご発																	igA.	



アドバンス編

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

開催形式オンライン開催定員40名

開催期間 : 令和6年9月25日(水)・26日(木)

(講師名:敬称略)

(講師名: 歐称略)										
課程・講師名	日程	会場) 	11:00 12:00			:00	16:00 17:00
			9:15	9:40	10:00 10:40	10:45	12:00	13:00 15:00	Э	15:15 17:00
A課程 産学官連携を推進する組織作りやデータ分析、 リスク管理への取り組み (開議埃拶) 小長谷 幸 科学技術振興機構 人財部 科学技術インペーション人材育成室 室長				3.40	[導入講義] 産学官連携の現状と 推進活動	[講義①] 産学官連携とのかかわり方と 基本姿勢		[講義②] データ活用の取り組みと分析		[講義③] 産学官連携にかかる リスクマネジメント
(講師) 名務 茂夫 東京大学 大学院工学系研究科 教授 産学院創推進本部 副本部長 一般社団法人日本ベンチャー学会 会長				(型)	東京大学 各務 茂夫	立命館大学野口 義文		東京工業大学 儀部 靖博		東京医科歯科大学 振 り 返 の
野口 製文 学校法人立命館 理事 立命館大学 副学長 兼) 産学官連携戦略本部 副本部長 兼) 大学統十・リアバス推進室 窒長 兼)研究部 事務部長 議部 靖川 東京工業大学 企画本部 戦略的経営室 特任准教授 飯田 香絲里 東京医科歯科大学 副理事 (東京医科歯科大学 副理事 (東京医科歯科大学 副理事 (東京と科歯科大学 副理事 (東京と科歯科大学 副理事 (東京と科歯科大学 副理事)	9/25 (3k)	WEB	受付	者 開講挨拶 記明·注意事項	産学で連携の実務者が学ぶへをきれていません。 を受けていまするのでは、 を受けていまするのでは、 を受けてでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずなのでは、 を必ずるのでは、 をがなるでは、 をがなるでは、 をがなるではななななななななななななななななななななななななななななななななななな	大学等、研究機関で示されている 研究の理念や基本目標、目標に向 けた施策の研究ビジョンにご環境ので 事例を通して学ぶ。研究環境のの変 化や多様化する産学官連携の形を 踏まえ、協力支援のあり方や組織 が戦略的に動く方策を検討する。	昼食休憩	大学における研究は、教育や社会貢献に必要な「知」の源泉であり、IR(Institutional Research)は研究力強化に関する課題分析、取組結果のモニタリングに活用されている。産学管連携の中でも組織対組織の取り組みに有効となるデータの活用を検討し、その重要性について考える。	休憩	産学官連携リスクマネジメントを全体俯瞰し、 近年の傾向から気を付けるべきリスクについて 具体的に把握する。産学官連携活動における研 究契約の遵守や違反の予防など、組織でどのよ うにマネジメントしていくか、その方法につい て事例を交えて考える。
3 33.7 · 335633 R										

